

令和3年度 第1回近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策推進協議会における主な意見

日 時：令和3年9月1日（水）

14:30～16:00

場 所：県庁 新館7階大会議室
（オンライン併用）

議題

- (1) 令和2年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況について
- (2) 近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する基本的な指針について
- (3) その他（ここ滋賀関連事業）

2 主な意見

議題（1）令和2年度近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する施策の実施状況について

- ・事務局より資料に基づき報告と説明。
- ・達成度〇〇%というのは目標に対してか。→その通り。
90項目かなりいろいろあるが、一度には難しい。→（資料1）参照。通番の14番や22番はコロナの影響を大きく受けている。
- ・モノづくり振興課で特に取り組んだ事業はあるか？
→補正の事業を例にあげると、広く地場産品を知ってもらうための事業として近江の地場産品によるおもてなし向上事業費補助金があり、今年度も実施している。
- ・昨年、滋賀県の伝統工芸を扱ったホテルの事例が紹介されていた。この補助金の話も同じことだと思うが、滋賀県の食材を使ったり、滋賀県の産品を使ったりしてもらうことは良いこと。初めは大変かと思うがニーズが生まれてくることを期待したい。

議題（2）近江の地場産業および近江の地場産品の振興に関する基本的な指針について

- ・コロナ禍は避けて通れない。指針にはコロナを見据えた内容を入れてほしい。
指針について5年間となっているが5年という期間で良いのか。世の中の動きを反映せていくことを考えていかないといけない。
→5年間でよいのか、3年で見直さないといけないというご意見については、PDCAのサイクルを整理する必要がある。検証する時にも事業ごとに検証するのではなく、大きなくりで中項目として検証して次の年度につなげていくことが必要。
- ・今は動きが読めないが、柔軟に対応して欲しい。

議題（3）その他（ここ滋賀関連事業）

- ・コロナになって繊維のマスクもコロナ禍に貢献できたかと思う。マスクも落ち着いており今は厳しい状況。利用してもらえるとありがたい。
繊維企業や組合の販路開拓は展示会をやって企業にプレゼンすることが多い。実際に首都圏での展示会にも出展している。ここ滋賀は展示会の会場になると思っていたが、1階は物販、2階はレストラン、3階は吹き抜けになっており使いづらい。他府県では東京の会場を借りてでもやっている。高い利用料だと思うのでそれに見合うかという問題はあるが。
ここ滋賀の第二期の運営にあたり、委託事業者が変わる可能性があると思うが、店舗での売り上げも大事だが、滋賀県の製品の発信も重視して欲しい。
→ここ滋賀は5年目来年度からは第二期となる。事業者を公募して第二期をスタートさせる準備中。例えば県内企業のテストマーケティング的なことをここ滋賀でできるようにする、購買データを県内企業へフィードバックしていく、展示会等も含めて連携強化していく、等が大事であると認識している。
- ・イベントをしようとするスペースが必要になる。ここ滋賀は1階はショップ、2階はレストラン、3階が屋外であるが、レストランの時もあればイベント会場にもなるという柔軟性を持たせられないか。費用対効果を考えると大変かと思うがここ滋賀は発信拠点。日本へ、世界へ発信していくものとしてここ滋賀を運営して欲しい。
- ・令和2年度は前年比5割の来館者数に対して物販が7割であるが、その要因は？
→お酒や佃煮や近江牛のレトルト、信楽焼の食器など、おうち時間に関連したものが好調だった。観光にまわっていたお金が物販にながれていったということも考えられる。
- ・子供が動くときも親も一緒に動く。オンラインの料理教室やオンラインでの酒蔵巡りはどのくらい盛況だったのか。BtoCの活性化にも効果的か。

→オンラインの部分は盛況すぎるとリアルはいらなくなるという諸刃の剣であるが、リアルの際にも館内のキャパが超えた時に使えるツールとなりえる。